

関連用語一覧（事項別）

重要な視点	用語説明
大震災や都市型洪水など都市災害への対応	<p>【流域治水】 災害の激甚化・頻発化に対応するために、堤防の整備、ダムの建設などの対策とともに、<u>集水域から氾濫域にわたる流域のあらゆる関係者の協働により水災害対策を行う考え方。</u>（参考：国土交通省資料）</p> <p>【レジリエントなまちづくり】 その社会の外部から脅威がもたらされても、あるいは内発的な異常事態が発生しても、ほとんど影響を受けないか、影響があったとしても限定的に抑えられて深刻な事態には至らず、直ちに復元力が働いて回復する、そういう耐性や回復の仕組みが、また災害にめげずに立ち向かう精神風土が、備わった都市であり社会（参考：志波由紀夫、成原紘之（2012）「レジリエントなまちづくりに応える技術」）</p>
都市における自然環境・生物多様性の保全	<p>【生物多様性国家戦略】 新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に対応した戦略 2030年のネイチャーポジティブ（自然再興）の実現を目指し、地球の持続可能性の土台であり人間の安全保障の根幹である生物多様性・自然資本を守り活用するための戦略（環境省HPより）</p> <p>【ネイチャーポジティブ】 生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること。2030年までに「ネイチャーポジティブ（自然再興）」を実現することが、昆明・モントリオール生物多様性枠組2050年ビジョンの達成に向けた短期目標となっている。（参考：生物多様性枠組実現日本会議HP）</p>
都市環境の改善やエネルギー問題への対応	<p>【カーボンニュートラル】 二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量から、植林・森林管理などによる吸収量を差し引き、<u>実質の排出量をゼロとすること。</u>政府は2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを、2020年10月に宣言した。（参考：環境省「脱炭素ポータル」）</p> <p>【循環型経済】 資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止などを目指し、<u>資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動。</u></p>
都市の個性や魅力・風格の向上	<p>【シビックプライド】 「都市に対する市民の誇り」を示す言葉であり、単なる郷土愛でなく、「ここをよりよい場所にするために自分自身がかかわっている」という当事者意識に基づく自負心を意味する。 （参考：（公財）日本都市センター「シビックプライドの概念と歴史」）</p>
多様な主体によるまちづくりと連携したまちの価値向上	<p>【みどりのオフサイト効果】 緑により周辺地域へと与える効果。媒体効果とも言い換えられ、賑わい創出、コミュニティ形成、子育て支援、不動産価値など、さまざまな観点で考えられる。（第7回みどりのまちづくり審議会 資料）</p> <p>【エリアマネジメント】 特定のエリアを単位に、民間が主体となってまちづくりや地域経営（マネジメント）を積極的に行おうという取り組み。民主導のまちづくり、官民協働型のまちづくりへの期待から、大都市の都心部、地方都市の商業地、郊外の住宅地など、全国各地でエリアマネジメントの取り組みが実践されている。（参考：内閣府・内閣官房HP「地方創生」）</p>
みどりの保全・創出の展開と情報発信の強化	<p>【デジタルトランスフォーメーション（DX）】 データやデジタル技術を活用して、人々の生活をより良いものへと変革すること。まちづくり分野においては、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化、都市計画基礎調査情報等のGIS化・オープンデータ化、それらを活用したインフラのマネジメントの高度化等が代表的な取り組みとして挙げられる。社会の根本的な変化に対して、既成概念の破壊を伴いながら新たな価値を創出するための改革のことを示し、デジタル技術を用いた単純な省人化、自動化、効率化、最適化はデジタルトランスフォーメーションとは言えない。 （参考：デジタル社会の実現に向けた重点計画（デジタル庁）、令和3年情報通信白書「デジタルトランスフォーメーションの定義」）</p>
（仮）一人ひとりのいきいきとした都市生活の実現	<p>【ウェルビーイング】 肉体的・精神的・社会的にすべて満たされた状態であること。心身が健康というだけでなく、「幸福」「いきいきしている」などの状況も含む概念。（参考：（公財）日本生産性本部HP）</p> <p>【サードプレイス】 プライベート空間である自宅、パブリックな空間である職場に次ぐ、義務感なく集い、非公式に創造的な交流が行われるような第3の場所（参考：国土交通省「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」報告書）</p> <p>【ソーシャルキャピタル】 信頼、互酬性の規範、ネットワークなど、人と人の関係に着目した概念。「社会関係資本」などと訳される。</p> <p>【社会的包摂】 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）とは、社会的に全体を包み込むこと、つまり誰も排除されず、全員が社会に参画する機会を持つことを意味します。この考えは、持続可能な開発目標（SDGs）が大切にしている「誰一人取り残さない」という理念そのものです。（参考：（公財）プラン・インターナショナル・ジャパンHP）</p>